

親不知國道改良工事

高橋嘉一郎

中部日本を南北に縦貫する脊梁山脈日本アルプスの、北走して日本海に突入する所、則ち親不知山塊である。

國道十一號線が新潟縣西頸城郡青海町街の西端青海川を渡つてから同郡市振村に至る蜿蜒約十五料の間は、削り立つ斷崖絶壁で無ければ怒濤岸を嘯む巨岩怪石であつて、古の旅人をして親不知子不知の險と嘆かしめたのも道理である。

古の北陸道は青海町から青海川に沿ふて山に入り、曲詭「山姥」に名高い坂田峠を過ぎ上路村を経て市振村に出たのであるが、天氣のよい時は今の親不知驛附近で海岸に出て親不知の難所を通る旅人も少くはなかつた。然し名にし負ふ日本海の荒浪である。一度さかまけば親子兄弟互に

相顧る暇もない、僅に身を以て岩巖に避ける外はなかつたのである。

明治十一年、明治大帝北陸御巡幸の砌御通り遊ばされたのも山徑であつて駕に召されたと云ふ事である。近年大帝の御事蹟を訪ねて宮内官が來りその徑を調べて明にされたと云ふ。

明治十六年、時の縣令が山腹を横切り岩盤を切り劈いて道路を築造したのが即ち現在の國道であつて、新潟縣から富山縣に通ずる唯一の大道として大に効果を發揮したものであつた。然るに時移り星變り、鐵道の開通を見るや國道を利用するもの漸次その跡を絶ち、國道とは名のみで全く荒廢に委したので、道は缺け橋は朽ち人馬の歩行さへ難儀

な状態となつた。

軌近自動車

交通運輸の急

激なる發達は

本國道の改良

を促し遂に昭

和八年時局匡

救事業の一と

して起工を見

るに至つたの

は誠に喜ぶべ

き事であつた

本改良工事

は國直轄とし

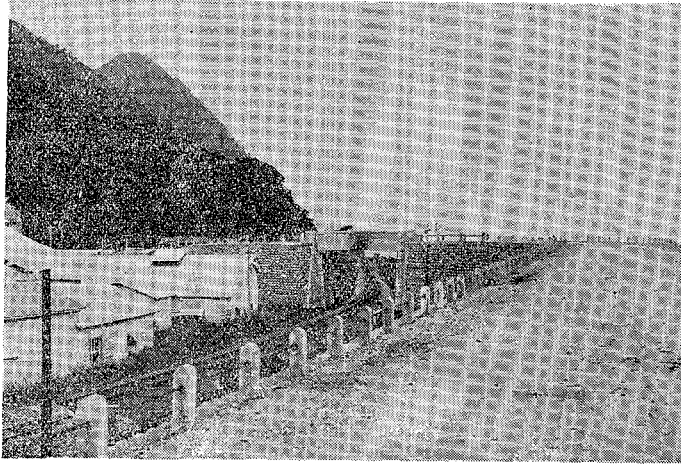
て内務省新潟

土木出張所之

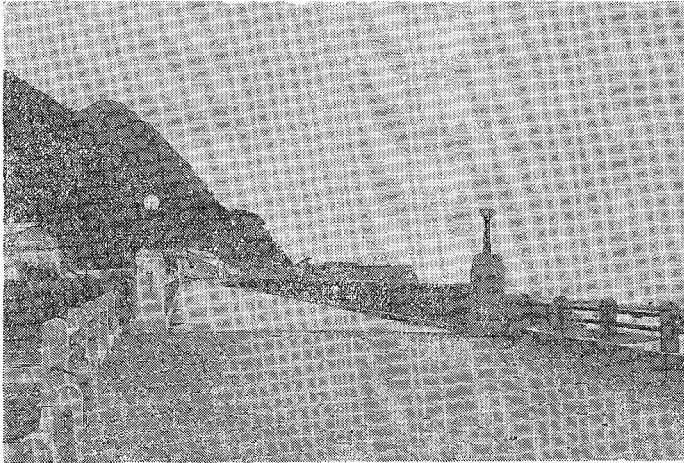
が施行の任にあたつて居る。

説

苑



跨線橋竣工の状況



青梅橋竣工の状況

計劃の概要は有効幅員六米、總幅員七米の砂利道で、最

急縦斷勾配

二十分の一

最小屈曲半

徑二十米を

規準として

居る。

起工以來

茲に三年、

青海町より

親不知驛附

近迄は既に

自動車交通

の不能な程

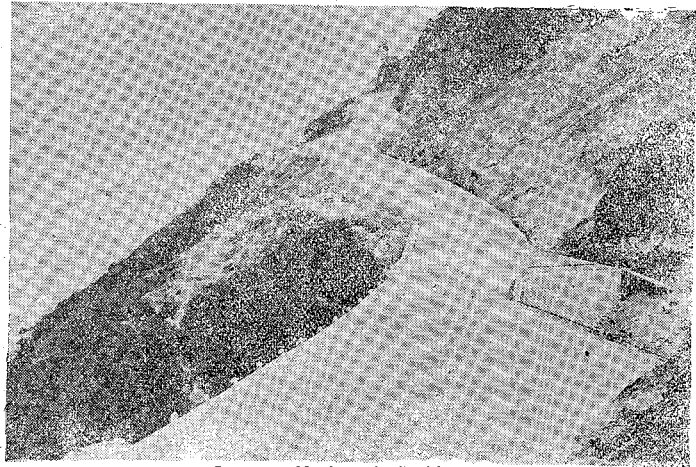
度に竣功し

た。何分冬

季は積雪多く雪崩の危険がある。平常と雖も山塊を形成す

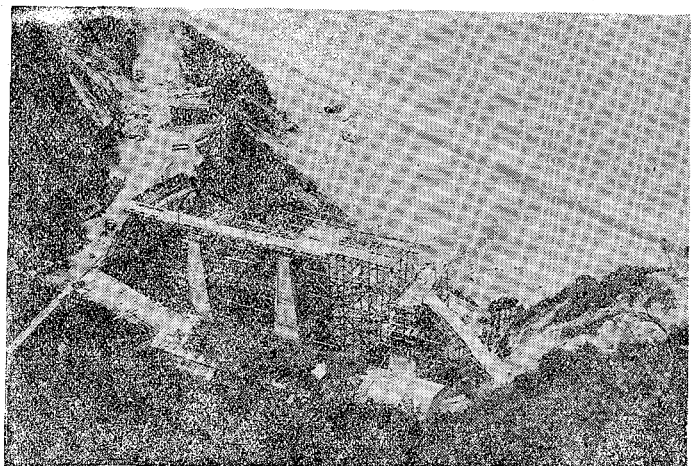
る岩石中には崩壊の虞ある個所多く、人夫には鐵兜を使用せしめて居る更に山骨をなす花崗岩は實に硬く切取至難である。此の如く諸種の原因が工事の進捗を阻むけれども、従業して居る人々の不屈不撓の努力により著々と進捗して居る。

八年度以來
十年度迄の工費五十三萬五千圓、延長八杆六で今後尙七杆



大峯橋附近道路竣工の状況

を改良して富山縣界に達するには四十餘萬圓を要するであらう。



波川橋工事の状況

あらう。従つて全部竣工迄には少くも三ヶ年の星霜を要し且幾多の困難に遭遇する事と思ふ。

かくて本國道が竣工の曉には、中部日本の交通運輸に劃期的の變化が見られるであらう。何となれば今日、日本海沿岸を通

する國道は、親不知の險に阻止せられて南北一貫を缺き、關東、東北より北陸方面へ、また關西地方より北越方面へは總て迂回を餘儀なくせられて居るのである。而して常に産業上、軍事上資するところ極めて甚大であるばかりではなく、觀光道路としても亦天下の偉觀となるであらう。

春秋の交、本國道の斷崖に立ちて渺茫たる日本海に相對せば、遙か右手には佐渡の島影碧波の彼方に淡く、左手を

望めば能登半島浮島の如く泛ぶ飛び交ふ。鷗、波に戯れる千鳥俯瞰すれば濱邊の地曳網老幼男女聲を合せて漁に餘念ないのも一風景である。蜿蜒十五軒に亘るドライヴウエイの期待さるゝ所以である。

『本誌口繪親不知國道は十一號國道新潟縣西頸郡歌外波村大字歌地内一部竣功の狀況』

道路並木伐採問題

徳 崎 香

伐採することを得ず

一、枯損に係るとき

二、障碍に係るとき

左に掲ぐる場合を除くの外並木及道路に必要な樹木を